

礼拝メッセージフィードバック

今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.6.5-11

BUT GROW IN THE GRACE AND KNOWLEDGE OF OUR LORD AND SAVIOR JESUS CHRIST. TO HIM BE GLORY BOTH NOW AND FOREVER! AMEN. II PETER

LTG ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:12 あなたがたには関係がないのか。道行くすべての人よ、よく見よ。このような苦痛がほかにあるか。私が被り、【主】の燃える怒りの日に主が私を悩ませたような苦痛が。
1:13 主はいと高き所から私の骨の中に火を送り込まれた。私の足もとに網を張り、私が背を向けるようにされた。私を荒れすさんだ女、終日、病んでいる女とされた。
1:14 私の背きのくびきは重く、主の手で、私に結びつけられ、私の首の上に載せられた。主は私の力をくじき、私を渡された。私が立ち向かえない者の手に。
1:15 主は、私のうちの強者たちをみな追い払われた。私を標的として「例祭」を呼びかけ、私の若い男たちを滅ぼされた。主は、ぶどう踏みをするように、おとめ、娘ユダを踏みつぶされた。
1:16 これらのことで、私は泣いている。私の目、この目から涙があふれる。元気づけ、慰めてくれる者が、私から遠く離れたからだ。敵に圧倒されて、私の子らは啞然とする。
1:17 シオンが両手を差し出しても、これを慰める者はいない。【主】は、ヤコブの周囲の者たちが彼の敵となるように命じられた。エルサレムは彼らの間で汚らしいものとなった。

この哀歌はエレミヤか、またはエレミヤのような心を持った同時代の預言者によって書かれたものです。それは神に背いたユダ王国が滅亡する悲惨さを嘆いている内容です。

それは預言者であるのですが、後のユダヤ人はこれを預言書ではなく、聖文書に区分しました。すなわち、神の民が生きるために必要な現代的な内容であるという解釈です。私たちもこれを読むとき、かつてのユダヤ人に関するものというだけでなく、自分の今の問題として読む必要があるのです。

すなわち、時代を貫く神様の救済の歴史であり、また現代人へ警告という示唆も与えられます。さらには信仰者としての自分自身への訓戒であり、勧めであり、希望でもあります。そのような視点で哀歌を読むなら、主の御心を悟り易くなるでしょう。とはいえ一番大切なことは、聖霊によって読み、主の前に従順であり、謙遜であることです。

ここでは「私」とあるのは、筆者ではなくエルサレムのことです。このような悲惨な出来事が起きたのは、「主の手」によるのだと告白しています。つまり自らの罪による神からのさばきであるということです。

私たちは辛いことがあると、それを何かのせいにして自分の要因があることを認めようとしない場合が多いのですが、それはむしろ解決を遅らせます。主の前に出て、主に聞いて、自分自身も不完全な人間であることを認めましょう。主に自分の非がどこにあるのかを示していただいで、そこから本当の解決と回復を始めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 火曜

哀歌



1:18 【主】は正しい方である。しかし、私は主の命令に逆らった。すべての国々の民よ、聞け。私の苦痛を見よ。若い女たちも、若い男たちも、捕らわれの身となって行った。

1:19 私は、私を愛する者たちを呼んだが、彼らは私を欺いた。私の祭司も長老たちも、都の中で息絶えた。気力を取り戻そうとして、食物を探していたときに。

1:20 「【主】よ、ご覧ください。私は苦しみの中にあり、はらわたはかき回され、私の心は私のうちで打ちのめされています。私が逆らい続けたからです。外では剣が子を奪い、家の中は死のようです。

1:21 私のうめきを聞いても、慰めてくれる者はだれもいません。敵はみな、私のわざわいを聞いて喜びました。あなたがそうなさったからです。あなたが告げられた日を来させてください。彼らも私と同じようになるために。

1:22 彼らの悪のすべてが、御前に出されますように。そして彼らに報いてください。あなたが、私のすべての背きに対して報いを返されたように。私のうめきは大きく、私の心は弱っています。」

19節までは主に逆らったことの結果として苦難が与えられたことを告白しています。自分自身の非を認めることは難しいことです。特に苦しみにあるときにはなおさらですが、それこそが回復の原点となることを知りましょう。主に回復を期待するしかないからです。

そして20節からの祈りにつながります。主への悔い改めにはまだ至っていません。私たちも同じで、とにかく主に苦しみを訴えたい思いで、心がいっぱいにあることがあるでしょう。それでもまずは、苦しみを訴えるところから始めればよいのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



7日 水曜

哀歌



2:1 ああ、主は娘シオンを御怒りの雲でおおい、イスラエルの栄えを天から地に投げ落とし、御怒りの日に、ご自分の足台を思い出されなかった。

2:2 ヤコブのすべての住まいを主は呑み込み、容赦なさらなかった。憤って娘ユダの要塞を打ち壊し、地に打ち倒して、王国とその首長たちを汚された。

2:3 燃える怒りをもって、イスラエルのすべての角を折り、敵の前で右の手を引き戻し、あたりを焼き尽くす炎のように、ヤコブを焼かれた。

2:4 主は敵のようにして、弓を引き絞り、はむかう者のようにして、右の手でしっかり構え、いとしい者たちをみな虐殺した。主は娘シオンの天幕に、火のように憤りを注がれた。

2:5 主は、敵のようになって、イスラエルを呑み込まれた。そのすべての宮殿を呑み込み、その要塞を破壊し、娘ユダにうめきと嘆きを増し加えられた。

2:6 主は、園にするように、ご自分の幕屋を荒らし、例祭の場所を滅ぼされた。【主】はシオンでの例祭と安息日を忘れさせ、激しい憤りをもって、王と祭司を退けられた。

2:7 主は、その祭壇を拒み、聖所を退け、その宮殿の城壁を敵の手に引き渡された。例祭の日のように、彼らは【主】の宮で声をあげた。

2:8 【主】は、娘シオンの城壁を打ち壊そうと決め、測り縄でこれを測り、滅ぼすことから手を引かれなかった。壘と城壁は悲しみ嘆き、ともに崩れ落ちた。

2:9 彼女の城門は地に沈み込み、主はそのか

んぬきを打ち壊して砕かれた。その王も首長たちも異邦の民の中にあり、もはや律法はなく、預言者たちも、【主】からの幻を見出さなかった。

2:10 娘シオンの長老たちは、地に座して黙し、頭にちりをかぶり、身に粗布をまとった。エルサレムのおとめたちは、頭を地に付くほど垂れた。

哀歌は詩として技巧が用いられていて、整えられた形式を持っています。ここでまた苦難について訴えるのですが、17節からは回復のための祈りについて書いています。このように、苦難と悔い改めと祈りは、イスラエルの共同体全体のテーマであり、さらには人類に共通するテーマです。

「主は呑み込み…」というように、主の厳しさを感じる時でも、主は愛のお方ですから、悔い改めましょう。自分だけではなく、みな同じように主に悔い改めて赦していただいているのだと、覚えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



▶ 8日 木曜

哀歌



2:11 私の目は涙でかすみ、はらわたはかき回され、肝は地に注ぎ出された。私の民の娘の破滅のために。幼子や乳飲み子が都の広場で衰え果てている。

2:12 彼らは母親に言い続ける。穀物とぶどう酒はどこにあるのかと。町の広場で負傷した者のように衰え果てたときに、母親の懷で息絶えそうなときに。

2:13 娘エルサレムよ。あなたのことをどう証言し、何になぞらえよう。おとめ、娘シオンよ。あなたを何に比べて、あなたを慰めよう。実に、あなたの傷は海のように大きい。だれがあなたを癒やすことができよう。

2:14 あなたの預言者たちは、あなたについて、むなしい、ごまかしの幻を見た。あなたの咎を暴いて、あなたを元どおりにしようとはせず、あなたについて、むなしい宣告と、惑わすことばの幻を見た。

2:15 道行く人はみな、あなたに向かって手を打ち鳴らし、娘エルサレムを嘲って頭を振り、「これが、美の極み、全地の喜びと言われた都か」と言う。

2:16 あなたの敵はみな、あなたに向かって大きく口を開け、口笛を吹き、歯をむき出しにして言う。「われわれがこれを?み込んだ。ああ、これこそ待ち望んでいた日。これに巡り会い、じかに見た」と。

2:17 【主】は計画したことを行い、昔から命じていた自らのことばを成し遂げられた。滅ぼして、容赦せず、あなたのことで敵を喜ばせ、逆らう者の角を高く上げられた。

幼子、母親、娘など、全ての人がこの苦しみなめていることが記されています。社会的にもどうにもならない状態です、当然家族全体がそれぞれに絶望的な状態です。敵に蔑まれるような、もうどうにもならない...そんな状況が私たちにもあるかも知れません。そこまでではなくても、まさかこんなことが...ということはあるものです。

そのときに重要なこと、回復につながる一步は主を見るということです。17節にあるように、それはまだ希望というようなものではないかも知れませんが、主かなさったこととして、主の計画に心を向けることです。それが主の懲らしめであるなら、主の回復が待っています。主の教えであるなら、その教えを受け入れた後に祝福が待っています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 金曜

哀歌



2:18 彼らは主に向かって心の底から叫んだ。娘シオンの城壁よ、昼も夜も、川のように涙を流せ。自分に休みを与えるな。あなたの瞳を休ませてはならない。

2:19 夜、見張りの始まりに、立って大声で叫べ。あなたの心を主の前に、水のように注ぎ出せ。あなたの幼子たちのいのちのために、主に向かって両手を上げよ。彼らは街頭のいたるところで、飢えのために衰えきっている。

2:20 「【主】よ、よくご覧ください。だれにこのような仕打ちをなさったのかを。女たちが、自分の胎の実を、養い育てた幼子を食べてよいでしょうか。祭司や預言者が、主の聖所で虐殺されてよいでしょうか。

2:21 若い者も年寄りも道端で地に横たわり、若い女たちも若い男たちも剣に倒れました。あなたは御怒りの日に虐殺し、屠り、容赦されませんでした。

2:22 あなたは、例祭の日のように、私の恐怖を、四方から呼び集めました。そのため

【主】の御怒りの日には、生き残る者も逃れる者もいませんでした。私が養い育てた者たちを、私の敵は滅ぼし尽くしました。」

このような絶望的な状況の中で、預言者は主に祈ることを勧めます。その祈りは上品なものでもなく、理路整然とした知的なものでもなく、靈的に深いものでもありません。「川のように涙を」流し、また「大声で叫」ぶような祈りです。見栄も体裁もない、心を取り乱すようなものです。

しかし、そこにこそ「心を...注ぎ」出すような祈りができるのです。熱心な祈りとなるのです。祈りとならないような祈りにこそ、真実な姿があることを覚え、そこに期待しましょう。立派でレベルの高い祈り手であることを止めましょう。むしろ真実で正直な祈りをささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 土曜

哀歌

- 3:1 私は、主の激しい怒りのむちを受けて
苦しみにあった者。
3:2 主は、私を連れ去り、光のない闇を歩ませ、
3:3 御手をもって一日中、繰り返し私を攻められた。
3:4 主は、私の肉と皮をすり減らし、私の骨を砕き、
3:5 私に対して陣を敷き、苦味と苦難で私を取り巻き、
3:6 私を暗い所に住まわせられた。はるか昔に死んだ者のように。
3:7 主は私を囲いに入れて出られなくし、私の青銅の足かせを重くされた。
3:8 私が助けを求めて叫んでも、主は私の祈りを聞き入れず、
3:9 私の道を切り石で囲み、私の通り道をねじ曲げられた。
3:10 主は、私には待ち伏せる熊、隠れたところにいる獅子。
3:11 主は私を道から外れさせ、私を引き裂き、無残な姿にされた。
3:12 弓を引き絞り、私を矢の的のようにして、
3:13 矢筒の矢を、私の腎臓に射込まれた。
3:14 私は一日中、民全体の笑いもの、彼らの嘲りの歌となった。
3:15 主は私を苦菜で満腹にし、苦よもぎで酔わせ、
3:16 私の歯を砂利で砕き、灰の中で私を踏みつけられた。
3:17 私のたましいは平安から見放され、私は幸せを忘れてしまった。
3:18 私は言った。「私の誉れと、【主】から



受けた望みは消え失せた」と。

ここでは主が自分を苦しめたのだと歌っています。これは見かけ上の事実とは違います。実際にエルサレムを陥落させ、飢えと恥辱を与えたのはバビロニアでした。しかしユダヤでは伝統的に、出来事の背後には全能の支配者である主がおり、その主の許しがあって事が起きると考えられていましたから、このような表現が見受けられます。今の私たちの理解とも通じます。

主によって苦しめられるというのは、恐ろしいことではありますが、それは回復への道をも含んでいます。というのは主がなさったのなら、その主の力で救いと癒しも与えられるはずだという希望です。

ですから私たちも、苦しみはサタンが与えるものであり、それをもたらしたのは自分の罪であることを十分承知した上で、それが主から来たものであるという視点を持ちましょう。そして主からの懲らしめを十分に受けつつ、主の回復を求めましょう。主は懲らしめの最中も変わらずに愛のお方です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





3:19 私の苦しみとさすらいの思い出は、苦よもぎと苦味だけ。

3:20 私のたましいは、ただこれを思い出しては沈む。

3:21 私はこれを心に思い返す。それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。

3:22 【主】の恵みを。」実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。

3:23 それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は大偉です。

3:24 【主】こそ、私への割り当てです」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。

3:25 【主】はいつくしみ深い。主に望みを置く者、主を求めるたましいに。

3:26 【主】の救いを静まって待ち望むのは良い。

3:27 人が、若いときに、くびきを負うのは良い。

3:28 それを負わされたなら、ひとり静まって座ってよ。

3:29 口を土のちりにつけよ。もしかすると希望があるかもしれない。

3:30 自分を打つ者には頬を向け、十分に恥辱を受けよ。

3:31 主は、いつまでも見放してはおられない。

3:32 主は、たとえ悲しみを与えたとしても、その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。

3:33 主が人の子らを、意味もなく、苦しめ悩ませることはない。

3:34 地上の捕らわれ人をみな足の下に踏みこじり、

3:35 人の権利を、いと高き方の前で曲げ、
3:36 訴訟で人を不当に扱うのを、主は見えておられないだろうか。

3:37 主が命じられたのでなければ、だれが語って、このようなことが起きたのか。

3:38 わざわいも幸いも、いと高き方の御口から出るのではないか。

3:39 生きている人間は、なぜ不平を言い続けるのか。自分自身の罪のゆえにか。

絶望的と思える中でも、主に叫びうめくような祈りの中で、人は主ご自身の恵みに気づきます。「恵み」「真実」「偉大」「私への割り当て」などに気づき、さらには「主はいつくしみ深い。」とまで感じ、「くびきを負うのは良い。」とまで言えるようになります。

そして28節以降のように主への揺るぎない信頼へとつながってゆきます。このような信仰はすぐには与えられるものではなく、苦しみの中で叫びうめき、主への赤裸々な告白を通して与えられるものです。そのような無力で弱い自分を認めて、さらには罪を認めてゆくとときに、聖霊が働いてくださるのです。

何事でも祈りましょう。弱さと罪を認めて、聖霊を待ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

